

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671900298
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム ゆらり
訪問調査日	平成 20 年 9 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	671900298		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム ゆらり		
所在地 (電話番号)	山形県南陽市柵塚1896-13 (電話) 0238-43-8123		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(平成20年8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤	人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造従来工法	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川西湖山病院、西山医院、いとう歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム近くには古くからの温泉旅館や商店街、公共施設等があり、いつでも利用できる環境の中で、近隣住民との良好な関係にも支えられながら、利用者が地域との交流を深め、その人らしく、ゆったりと、楽しく暮らすことができています。
また、県内外で介護保険事業を展開している法人の理念・方針に基づく人材育成の取り組みが、さらに質の高い認知症ケアの実践へとつなげられてきています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービス事業所として「利用者がその人らしく暮らしていくには何が大切か」を職員全体で検討しており、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるように、ホーム独自の理念をつくりあげている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果について全職員で検討されており、具体的な改善が見られた。また、職員会議でも評価の意義についての理解を深め、職員全員で話し合っって自己評価をまとめており、サービスの向上に向けた取り組みを進めている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに運営推進会議が実施されており、事業の実施状況の報告、ホーム運営や利用者サービスに係わることについての意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話連絡の際に出された要望や不満、運営推進会議で出された意見を考慮し、ホームの運営に反映させている。また、サービス利用開始時に、重要事項説明書を使用した苦情窓口の説明も行われている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会への加入、地区の一員として総会や行事への参加、ホーム行事のパンフレット配布や案内の回覧、ボランティアの受け入れなど、積極的に地域住民との交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所として「利用者がその人らしく暮らしていくには何が大切か」を職員全体で検討しており、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるように、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議で法人およびホームの理念を確認しながら月ごとの目標を決めており、全職員でその内容を共有して目標達成に向けた取り組みを進めている。また、ホーム内の明示や新任職員への説明も行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地区の一員として総会や行事への参加、ホーム行事のパンフレット配布や案内の回覧、ボランティアの受け入れなど、積極的に地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果について全職員で検討されており、具体的な改善が見られた。また、職員会議でも評価の意義についての理解を深め、職員全員で話し合って自己評価をまとめており、サービスの向上に向けた取り組みを進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議が実施されており、事業の実施状況の報告、ホーム運営や利用者サービスに係わることについての意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。		

山形県 グループホームゆらり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に毎月ホーム便りを持参して、ホームの取り組みなどを伝えている。また、利用者支援に関すること等の相談や話し合いも市担当者で行われており、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりはホーム便りや面会時などに家族に伝えており、健康状態は通院時に連絡したり、状態変化があればその都度電話連絡をする。また、金銭管理報告と家族確認、職員異動等のホーム便り掲載も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に出された要望や不満、運営推進会議で出された意見を考慮し、ホームの運営に反映させている。また、サービス利用開始時に、重要事項説明書を使用した苦情窓口の説明も行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代は事前に説明をしたり、スムーズに引き継ぎが出来るよう時間を設けている。また、ユニット合同の行事や日常的な交流場を設けて、利用者職員が馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修計画があり、職員それぞれが段階に応じて研修に参加している。また、研修内容の全体会議での報告、外部研修への参加も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人が運営している複数の事業所との間で訪問見学や交換研修を行っており、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、掃除、洗濯物など、利用者と職員とが協働できる場面をつくりながら、利用者から学んだり、共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症高齢者に合った課題分析方法を取り入れており、利用者との日々の会話や関わりの中からも、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通が難しい場合には家族の協力も得ながら、本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症高齢者に合った課題分析方法を取り入れて介護計画を作成しており、利用者がその人らしく暮らせるよう、本人や家族の思いと意向を聞きながら、十分な検討を重ねて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回介護計画の取り組み状況を確認しており、本人や家族の満足度も確かめるようにしている。また、状態変化があれば、その都度必要な関係者とも話し合っ介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に診てもらうことができ、やむを得ず変更が必要な場合には、本人や家族と話し合っ同意を得ている。また、必要に応じて職員も受診に同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時、契約書や重要事項説明書で詳しく説明されており、運営推進会議でも取り上げられている。また、状態変化時には、本人、家族、かかりつけ医と相談しながら対応方針を決め、職員間で対応方針を共有しながら、本人や家族に不安が生じないよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	倫理綱領を明示するとともに、独自の評価表により確認と改善に努めており、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないようにしている。また、ボランティアの方にもプライバシー保護についての協力を呼びかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの役割を持ってもらうこと、散歩や外出することなど、利用者一人ひとりの体調、気分、ペースにあわせた対応が柔軟に行われている。		

山形県 グループホームゆらり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方から季節の野菜・山菜などの頂き物もあり、利用者と職員と一緒に準備や味付けを行いながら、食事を楽しめるよう支援している。また、季節感のあるものを取り入れた献立を、利用者と職員と一緒に考えて作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間入浴可能な設備があり、利用者の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。また、入浴時のプライバシー保護にも注意しながら、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、経験等を活かした役割や楽しみごとの支援に取り組んでおり、花を生けてもらったり、秋祭りにはお茶をたてて地域の方にふるまったり、職員の特技を活かして書を楽しんだりしている。また、ボランティアも受け入れた楽しみごとの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの外出や近所の温泉街での足湯など、気分転換を図れるように支援しており、買い物、散歩、理美容室の利用などの支援も日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員が一人になってしまう場面で一時的に短時間の施錠をすることはあるが、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、普段は鍵をかけず過ごせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルが整備されており、消防署や近隣の協力を得た年2回の避難訓練や夜間を想定した訓練が行われている。		

山形県 グループホームゆらり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取状況はチェック表に毎日記録されており、利用者の状態に合わせた適切な対応がなされている。また、献立内容については法人の管理栄養士による確認を受けてる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間内には季節の花や利用者の作品等がほどよく配置されており、落ち着いた空間となっている。また、リビングはソファで仕切られ、思い思いに過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には家具や写真、楽器など、一人ひとりが愛用していたものが持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。		